

ベストピア Bestopia

小原靖夫

ベストピアは小原靖夫の
個人誌です。

平成二十三年八月
第二九四号

1. 私の古稀

主は常にあなたを導き、焼けつく地で、あなたの渇きをいやし、骨に力を与えてくださる。あなたは潤された園、水の涸れない泉となる（イザヤ書 58-11）

清水窈子牧師から頂いた誕生日の聖句です。

8月は広島、長崎の原爆記念日があり、終戦記念日がありますが、その間に私の誕生日があり、今年は70歳になりました。古稀ということで、沢山の方から祝福の言葉、おもてなしを頂き有難き日が2週間続きました（原発と原爆のことについては後に記します）。

(1)子供たちがお祝いをしてくれるというので8月1日に宝塚に向かい、孫たちと楽しい食事会をしました。皆が元気で食卓を囲めることほど嬉しい事はありません。子供たちの仕事のこと、孫たちの学校のこと、上の娘はブラバンの部活で頑張っている。なにせ全校生徒と57名の中学校で13人のメンバーのブラバン、全員がレギュラーで誰一人欠けても大会に出られないという、その中でユーフォニアムを吹いているのも孫娘一人ということ。絵の上手な光棋は剣道を始め男の子らしく精悍にかつユーモア豊かに最後の小学校生活を楽しんでいる。

息子は「希望の家」で働き始めまだ1年経っていませんが経験が生かされ重責を果たしている。地元の消防団にも加わり喜ばれている。嫁の貴子は祖父が寄付した土地

に建てられた宝塚市立西谷児童館で幼児教育に従事しながら子育て中のお母さんからの相談にのってボランティア活動にも精を出し地域にとけ込んでいる。

近くにある猪名川ロッジの美味しい料理の一つ一つを「これは地元でとれた野菜だから、甘みがあっていいね」「これは地元で飼育された三田牛だから安心だね」なにげない会話にも原発に影響が入り込んでいます。「これからは、月に1度くらいは皆でこうして食事をしたいね。」と私が本音を漏らす。美味しい料理が会話をより華やかにする。最後の盛り上がりはロッジの皆さんからのこれまた、実に美味しいデザートで締めくくられ、温泉にはいる。光棋が背中を洗ってくれるというサプライズに感激。

(2)8月2日は子供たちと我々夫婦の4人で西宮北口にマンションの見学、これについても、家族だからこそその会話がはずむ。

翌日は貴子の両親と大おじいちゃん(90歳)も参加していただいたの祝宴、場所は三田ホテル。三田ホテルが特別企画中で通常1万円のコースを2000円でサービスするという。「本当かしら。何が出てくるのだろうか。興味しんしん。」メインは5等級の三田牛の盛りだくさんにはいった牛重弁当、とろけるような柔らかさに子供たちは声も出さずに夢中に箸を動かす。最後はホテル側からの美味しいデザートが誕生日の祝いをより華やかにしてくれました。

(3)4日から6日は妻と山陰を旅し足立美術館を訪ね、横山大観、河井寛次郎の作品を鑑賞。

整備された綺麗な庭園を満喫しながら、作品の間に書いてあった言葉に惹かれもう一度まわる。河井寛次郎の詩が沢山の作品の中に輝いている。

「おどろいている自分に / おどろいている自分」

「助からないと思っても助かっている」

「同じ底辺を持った無数の三角形」

「ひとりの仕事でありながら / ひとりの仕事でない仕事」

まだまだありますいい言葉。これらの言葉の前で考える自分、今ここに生きると思っていると又目に入る。「何という今だ。今こそ永遠」きりが無いのでこのあたりでストップします。

(4) 7日は妻の父の17回忌の法要を大阪ですませ、九州の筑後へお見舞い(8日)の前夜に親しい友人に囲まれて Happy Birthday の祝宴に歓喜する夜でした。翌日はお見舞いを済ませ羽田空港へ、そして帰宅。全快を祈る。

(5) 11日の午前「フラワー電報です」と元気な声が玄関にこだまする。高橋真弓さんからの心温まるメッセージと美しいお花を頂きました。「古稀は天寿への山登りの登山口とのこと。まだまだ登り道は遥かに続いています。本日は天寿への道のスタートの日です。」とお言葉を賜りました。5年間親身になって私を支えてくださった恩人であり、上司です。「この人有りて——」

(6) 11日の夜は事務所の皆さんが古稀を祝う会を企画してくれており、当日、妻からそのことを知らされる。多忙な事務所の故、申し訳ない気持ちはあるものの、その時間が待ち遠しい。

6時30分から定められた場所にて①つめのサプライズー独立した浅沼君、千田君、

高橋君に長い間親子2代で支えてくれた畠中さんが出席してくれており、これには本当に驚きました。全く意外、考えられない意外、言葉に出来ない意外性で、それだけに嬉しく、これを許した所長の黒仁田君の度量の広さに感謝一杯です。又、独立した彼らの凄い成長ぶりに感動嬉しさ限り無しという喜びでした。これからの私の喜びはこうした若い人の成長です。私が出来なかった大きな仕事もこなしている。あっぱれと賞賛です。

②プレゼントの一段目が 1941 年産のワイン Chateau Sisqueille の RIVESALTES に美しい花束を添えていただいた。

③プレゼントの2段目は「月の土地の権利書」で登記すると2エーカーが私のものになるというのです。登記方法はインターネットですが、権利書を取り出すとせっかくの空気が抜けるので滝沢先生にこのプレゼントの実感をお伝えした後に取り出そうと思っています。その日は10時近く迄お店も協力してくれたようです。帰宅してすぐに事務所の皆さんに手紙を書きました。皆さんの潜在能力の深さに大サプライズー感謝感激

(7) 12日は孫娘が短い1週間の夏休みということで来てくれました。13日はスカイツリーの見学、墨田トリホニーホールでのコンサート、銀座での会食も誕生祝い付きになり行くところ行くところでお祝いをして頂きました。

(8) 14日は清水牧師と同労の教友と昼食の後、恩師滝沢陽一先生を訪ね夕食をご馳走になって10時の帰宅も元気一杯。

今年1月18日以来、胃の調子が悪く何度も胃カメラの診断を受けていましたが、8月2週間の毎日のご馳走にも耐えられ快方にあることも嬉しい事です。

この間約束の原稿があり、電車や飛行機の中で勇ましく iPad を出してメモに書き込みをしながら、なんとか約束を果たしています。実に守られて、支えられて、生かされた、私の人生のドラマが「今ここに」も現れています。

祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころとなられる。

彼は水のほとりに植えられた木。その葉は青々としている。いつも実を結ぶことをやめない。(エレミヤ書 17 章 7-8)

[滝沢陽一先生から頂いた聖句]

2. 暑き故ものをきちんと並べをる

「冷房の無い時代、かつ戦後の混沌とした時代の耐え難い暑さの中で、せめて見ただけでもすっきりさせよう」ものをきちんと並べたことを歌ったものです。暑さを整理し涼しに転換しようとしているという。(細見綾子作、樫未知子解説)

随分古い新聞記事ですが、暑い夏を乗り切った先人の知恵が香ってきます。

今年は電力の供給不足と猛暑が重なり熱中症が増えているとの報道が多くあります。

部屋の中にも注意が必要とのことで油断なりません。対策としては節電しすぎないこと、水分不足にならないこと、水分補給の時に塩分を取りすぎないこと等々親切な解説が目立ちますが よくよく考えると難しくどうしていいか解りません。ほどほどにということなのでしょう。日本の政治のようです。判断は私自身に委ねられています。

3. 原発と電力供給について

(1)ベストピアでは世界の原発の現状と建設予定について6月号にデータ付きで記載しましたが、菅首相の発言はいつも時期を失っているようで、真意が伝わりません。

安心を重視すれば「原発廃止」でしょう。経済界と政治家は多数が反対です。情報を公開してオーストリアのように国民投票をしてみてもどうでしょうか？今や私たちは放射能と共に生活をせざるを得ない環境にあり、東北地方での子供の数は増えないでしょう。保育園、幼稚園、小学校の様子をみて、女性は特に不安が募るでしょう。人口の減少が経済に与える影響を体験済みの日本です。経済的利益で便利になったことが豊かさの実感でしたが、失ったものも多くあり、本当に豊かさを感じている人はそんなに多くはないのです。

原発と電力供給についての多くの論調は「豊かさを保証するのは電力であり、原発は必要」「貧しくなるのを覚悟しなければ、原発はなくせない」というものです。深読みをすれば「貧しくなるのを覚悟すれば原発依存から脱却できる」ということになります。何が貧しくなるのかを一人一人が考え、意見を交換してみるのも良いかもしれません。豊かさ貧しさの基準が「便利」さにあるように私には思えてならないのです。「便利」になりすぎて失ったというより放棄したものが多くあります。例えば「いつでも買える」という便利さは「保存すること」の能力を不要にしました。それでお正月の家庭のあり方を変えてしまいました。文明が文化を変えた典型的な事例です。文化が全て「善」と言うことではないように、文明が常に「善」でもないのです。

原爆の平和利用という言葉にごまかされました。日本人は本当に平和を願っているので平和という言葉に弱いのです。政治家

はそこをついてきました。言葉の持つエネルギーの逆利用は見事というべきです。平和は安心をもたらす安全の上に築かれるものです。

(2)文明についてベストピアでは以前にシュメールを取り上げたことがあります（未完なので完成に向けて再挑戦の予定です。2012.01以降）。必ずしも必要のない「文化的なこと」を少し捨てることによって、捨てられていた文化の中から助けになる知恵を見いだすことが出来るかもしれないのです。

冒頭の「暑き故ものをきちんと並べをる」もその一つです。人は生きる知恵をたくさん与えられてきました。振り返れば、必要なものが必要なときに与えられてきた経験は全ての人にあります。試練もその一つであり、乗り越えたことによって強さが与えられました。東日本大震災の被害に遭われた方には、一日も早く賢く強く復興していただきたくことを祈ります。間接被害者である我々も「放射能」と共なる生活をしながら後生にこれ以上の負の遺産を遺さないよう心がけねばなりません。このままでは私たちはいくらの「負の遺産を遺せば気が済むのか」と未来の人々から言われそうです。

(3)1000兆を越える公的負債の上ののしかかってきた放射能と古い原発（法定減価償却済み）の処理、東日本大震災の大被害で国民は困り果てているのに、政治家はお家騒動に明け暮れている、そんな国家の経済的価値が欧米と比較して毎日高くなっているのです。

ドルもユーロも危ういのでより安全な円を世界の投資家が買っているといえます。

日本はどんどん窮地に追い込まれているように私には感じられます。矛盾が大きす

ぎて「円の操作」の目的は何か？との疑問すら出てきます。9月6日からユーロ圏を旅して現地を実感してこようと計画しています。今回は原発依存率76%のフランスを主に旅します。来月はパリからのベストピアになるかもしれません。

4. 追記 旅のメモ

(1)8月8日私は福岡におり、午後8時48分頃テレビをつけた。ニュース845福岡、NHKの地方版です。この日、福岡で高校生と経済界、学者が原子力発電についてのディスカッションが行われ、その内容の一部が放映されていた。九州電力の社長の発言にはおそれいった。ヤラセメールを平気で指示する人格丸出し、不実と虚偽の姿勢は一貫している。

「原子力発電はコストが安い」と高校生を前に平然と発言していた。このディスカッションは全部を見たかった。現場にいた高校生がどう反応したかを正確に知りたい。

原発と菅首相の退陣のニュースには癖壁として聞く耳もなくなっている中でも、新たな怒りを禁じ得ない発言である。

「平然とウソを言う、大事な真実を知らせない」これが国のリーダーなのか。

民主主義も全体主義も絶対主義もリーダーの姿勢は変わらないのか。

8月7日午後9時から陸軍省のトップは原爆が広島、長崎に落とされる事を事前にキャッチ出来ていたにもかかわらず空襲警報も出さなかったことを検証する番組を1時間に渡って放映した。旅先で見たので録画が出来なかった。どなたか録画されておられたらコピーをください。お願いします。

昨年8月には「一步の距離」(城山三郎著)を詳しく紹介した。真実を隠して死を命じた特攻隊、大本営発表と言う言葉ができた。そして今もその言葉が生きている。終

戦を隠して最後の特攻隊の物語である。

(2)8月8日午後10時からマッカーサーの下で働いたGHQ占領軍司令官デルノアのお嬢さんを登場させた。デルノアは輝けるアメリカの英雄と言われていた。それはナチスを倒し世界に自由と平和をもたらした、アメリカの正義を信じた軍人であった。

彼は原爆投下された長崎に赴任を命じられた。GHQの占領政策が進むように監視をする為である。輝ける軍人とは鉄扉面を特徴とする。その彼の感情が動いた。1万人以上の引き取りのない遺体を供養する法要を見学した。彼はその時のことを両親に手紙を書いている。「僕は動揺を隠すことが出来なかった」と。長崎で見たことはナチスの大量虐殺と変わらない光景であった。人間というのは多くの人々に命を惜しまれて無くなって行くのがごく当たり前のことなのに、武器を持たない一般の市民が虫けら同然に殺されていく様子を見て愕然とする。

自分の為した真実を知った彼は「2度と原爆は使ってはいけない」「原爆投下を指示したトルーマン大統領は間違った決定をした。」と子供に伝えた。その言葉を受けてお嬢さんのパトリアさんが父の辿った道を訪ねた感動の番組であった。